

学 位 論 文 要 旨

氏 名 植 田 真夕子

題 目 社会的な見方と社会的な考え方の育成を組み込んだ小学校社会科授業構成原理の開発
－探究過程における思考の構造を視点として－

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

1. 問題の所在

知識基盤社会と言われて久しい今日を生き抜く子どもは、習得した知識を活用できるようにならなければならない。また、これまで普遍的かつ絶対的であったことは揺らぎ始め、結論や解決策を出そうとしても唯一絶対の解を出すことができない予測困難な時代となってきた。そのためには、内容知と方法知の習得と活用が組み込まれた学習活動をとおして、子どもに「未知な課題を解決する力」を育成することが重要である。

学校教育現場においては、授業者の話を受動的に聞いたり、「考えよう」といった問いに対して考えるふりをしたりする子どもの姿が見られる。子どもが主体的に考えることができるようになるには、何をどのように考えるとよいかを子ども自身が習得することが重要である。つまり、子どもの思考力の育成には、子どもに社会的な見方や社会的な考え方を習得させることが不可欠である。

2. 研究の目的

本研究は、探究過程における学習活動をとおして、社会的な見方や社会的な考え方を子どもに習得させるとともに、それらを活用することができる資質、能力を身に付けさせる授業構成原理を構築することが目的である。この社会的な見方や社会的な考え方は、子ども自身が汎用可能な知識を習得したり、子どもの思考力、判断力、表現力を育成したりするために必要不可欠な資質、能力として位置付け、研究を進めた。

3. 研究の概要

まず、社会的な見方と社会的な考え方を峻別してとらえる方法を論じるとともに、それらの習得と活用をめざす探究過程における子どもの思考の構造を明らかにした。探究過程における子どもの資料活用に着目し、資料を読み取る視点を子どもの記述や発言等から具体的に抽出するとともに、その際の思考活動を分析することで、社会的な見方と社会的な考え方の構造を明らかにした。次に、社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざす授業構成原理を構築し、子どもの思考力の育成をめざした授業開発を行った。

本研究の特徴は、これまで多くの社会科教育学の研究者が一体化してとらえてきた、社会的な見方と社会的な考え方を峻別して定義したところにある。学校教育現場において、「見方」、「考え方」といった用語のみが使われる状況で、それぞれの具体について定義されておらず、多くの教員が本質的な理解に至っていない。そこで、本研究において、社会的な見方と社会的な考え方について具体的に定義し、どのようにそれらを子どもに習得させるとよいか、開発した授業モデルの実践をとおして提案した。社会的な見方とは、社会事象をとらえる際に活用する視点である。この見方が成長することで、より複数の視点から社会事象をとらえることができ、子どもがもつ内容知の充実を図ることができる。社会的な考え方とは、見方を活用する際に働く思考である。この考え方が成長することで、より合理的に社会事象を吟味し、質の高い価値判断、意志決定を行うことができ、子どもがもつ方法知の充実を図ることができる。つまり、子どもの社会的な見方と社会的な考え方が成長すればするほど、子どもの思考活動は活発化し、知的複眼思考のレベルが高くなる。そして、このような学習活動を繰り返すことで、子どもは社会事象をとらえる際に活用する新たな社会的な見方を習得したり、社会的な考え方が多様になったりして、深い学びが実現される。

以上で論じたことをもとに、社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざす授業構成原理の構築をめざした。この授業構成原理は、子どもの社会認識の形成を図った上で、市民的資質の育成をめざすことを前提とした。なぜなら、価値判断や意志決定が求められる社会的論争問題を検討する際、子どもにどのような社会認識が形成されているかが価値判断や意志決定の質を左右するからである。そこで、防災教育に視点を当てて、社会認識形成を図りつつ市民的資質の育成をめざした授業モデルの開発、実践を行い、分析、検証した。

4. 研究の成果と課題

本研究の成果は、次の4点である。

- (1) 社会的な見方と社会的な考え方について峻別して定義したこと。
- (2) 社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざす授業構成原理の構築できたこと。
- (3) (2)にもとづいた授業モデルの開発、実践をとおしてその有効性を明らかにしたこと。
- (4) 小学校社会科授業における防災教育の取り扱い方を明らかにできたこと。

本研究の課題は、次の2点である。

- (1) 小学校社会科教育における防災教育以外の授業モデルを開発し、本研究で構築した社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざす授業構成原理の有効性を検証すること。
- (2) 社会的な考え方を働かせるために活用する視点として機能する社会的な見方の具体や社会的な考え方の活用について、発達段階に応じて、習得レベルを整理すること。